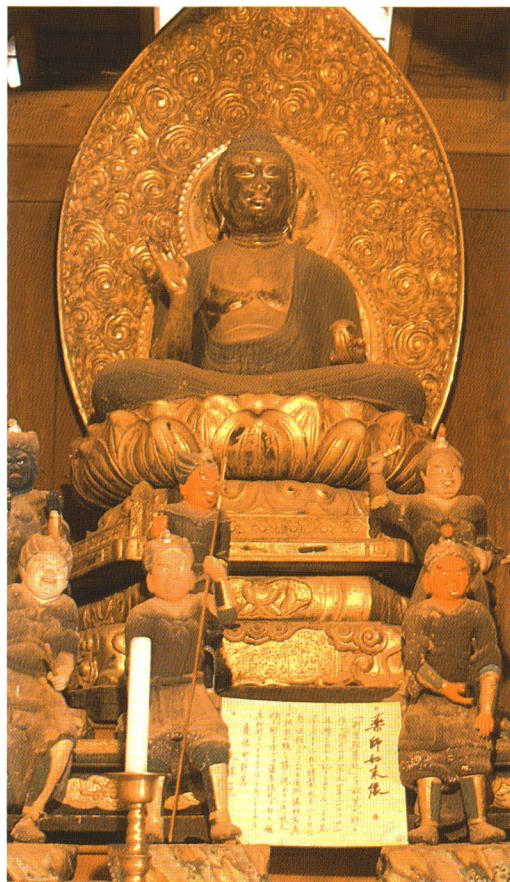


木造薬師如来坐像



文殊堂内に安置されているこの薬師如来像は、高さ七九センチの坐像である。小粒の螺髮、伏し目、小さな口唇、温顔でふくよかな面相、偏袒右肩の衲衣が腹から膝へと流れている衣文の線の彫りの浅いことなど藤原様式がうかがえ、鎌倉初期をくだらない作と考えられている。なお、「新宮雜葉記」には、この薬師如来像について、もと速玉宮の本地仏で慈覚大師の作と伝えており、宝永四年（一七〇七）に再興（修理のことか）されたと記してある。

所在地 慶徳町新宮字熊野 文殊堂

指定年月日 昭和四十九年二月十四日

木造如意輪觀音菩薩坐像

文殊堂内に安置されているこの如意輪觀音菩薩像は、高さ六八センチの寄木造りの坐像である。

「新宮雜葉記」には、もと児宮の本尊で定朝の作と伝えられており、宝永四年（一七〇七）に再興と記してある。

衲衣の深い彫りや顔面の形から、鎌倉末から室町時代にかけての作と思われる。金属の宝冠や胸飾りなどは後からつけたものであろう。

所在地 慶徳町新宮字熊野 文殊堂

指定年月日 昭和四十九年二月十四日

